

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	夢門塾扇町			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～	2025年 12月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46	(回答者数)	25
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～	2025年 12月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 10日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	施設スペースが広く、活動ごとに空間を分けるなど構造化された環境づくりが徹底されています。保護者からも「他の放デイと比べても広い」「十分なスペース」と高評価を得ています。	活動プログラムをチームで立案し、固定化しないよう工夫しています。スタッフと児童の意見も取り入れ、バリエーション豊かな活動を実施しています。	支援終了後の振り返り体制をより強化し、情報共有の質を高めていくことが期待されます（業務時間の制約により十分でないとの声あり）。
2	施設スペースが広く、活動ごとに空間を分けるなど構造化された環境づくりが徹底されています。保護者からも「他の放デイと比べても広い」「十分なスペース」と高評価を得ています。	支援前のカンファレンスやモニタリングを徹底し、個別支援計画の共有と振り返りを行っています。	地域交流や他機関連携をより深めることで、支援の幅を広げていく余地があります。
3	職員配置数が基準以上に確保されており、「他施設より多く配置している」との記載もある通り、手厚い支援体制が整っています。保護者評価でも配置数への安心感が高い結果となっています。	清掃・消毒の徹底や避難訓練の実施など、安全・衛生管理に力を入れています。保護者からも「ごみ一つ落ちていない」との声があります。	非常時対応やマニュアル内容について、保護者への周知をさらに強化することが望まれます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物構造上、車いす利用児の受け入れが難しいなど、バリアフリー面に課題があります。	施設構造上の制限（段差・車いす対応困難）が物理的要因となっています。	振り返り時間の確保や情報共有方法の見直しにより、チーム支援の質をさらに高めます。
2	支援終了後の職員打ち合わせが十分に行えていない日があり、業務時間の制約が課題となっています。	業務量が多く、支援後の細かな振り返り時間の確保が難しい状況があります。	物理的制約を補うため、外部施設活用など柔軟な対応を検討します。
3	地域交流（児童館等）については必要性を感じていない保護者も多く、交流機会は限定的です。	地域交流はニーズのばらつきがあり、優先度が低くなりやすい状況です。	非常時対応や安全計画について、保護者会などで改めて説明し安心感を高めます。